

私は、今回の東大見学会企業大学訪問で、本当に多くのことを学びました。中でも、私が特に印象に残ったことをいくつか紹介していきたいと思います。まずはディレクトフォースです。ディレクトフォースでは、新日鐵住金の社員の方々から様々なお話を伺いました。また、事前に与えられていたテーマについて、一人一人自分の意見を述べ、その意見を元にグループ全体で話し合いをし、お互いの考えをより深めていくという作業も行いました。私はその中でも、「自分が尊敬できるような恩師を見つけて、食らいつくようにしていくべきである」という社員の方のお話が印象に残りました。先生は、私たちと関わりが深く、そして常識の面でも、人生の面でも私たちの見本となるような身近な存在の一人です。学校という場合は、そのような大切な存在に巡り会う場所でもあります。学生時代は特に周りの影響を受けやすいので、自分が尊敬できるような恩師に出会うことは、自分にとって良い影響を及ぼすだろうとおっしゃっていました。私はこのお話を聞いて、先生との関係を大切に、尊敬できる部分をどんどん吸収して自分のものとし、今後の人生に役立てていきたいと思いました。

次に企業大学訪問です。私たちの班は協和発酵キリン株式会社東京リサーチパークに訪問しました。「キリン」と聞くとビールなどの飲み物を思い浮かべるかもしれませんが、協和発酵キリン株式会社では医薬品の開発も行われています。私たちは最初に、合成医薬品とバイオ医薬品の違いや、医薬品が製造・販売されるまでの過程の説明などを受けました。医薬品が世間に出回るようになるまでに、たくさんの人たちが思考を凝らし、何度も何度も実験をしたりするなど、長い年月と労力が消費されているということがよく分かりました。その次に私たちは企業の中を見学しました。建物は2010年設立でとても新しく、いくつもの実験室やオフィスなどがありました。また、協和発酵キリンでは「コミュニケーションを活発にしよう!!」をコンセプトとしていて、あたり一面にその工夫が凝らされていました。例えば、オフィスの机の仕切りの高さです。机に座り、何かに取り組んでいるときは、個のスペースを大切にするために、下を向くと周りが見えなくなるようになっていますが、前を向くと辺りが見渡せて、周辺の人たちと話し合いをすることができます。座ったまま話し合うことができますので、より頻繁にみんなで話し合うことができ、コミュニケーションを活発にとることができます。また、一部の壁がホワイトボードになっており、廊下で誰かと話し合いをしたときも、すぐにメモをとることができます。このような、とても小さく細かな工夫が、会社全体の明るく素敵な雰囲気を作り上げているんだなと思いました。最後に私たちは、協和発酵キリンの社員の方へいくつかの質問に答えていただきました。その回答の中に「新しい薬はもともとある薬の効果を越えなければならない。だから、常に今を越えようと意識している。」というものがありました。これは、医薬品開発だけにとどまらず、学習面や部活動の面でも同じ事が言えると思います。学習面においては、前回の模試よりも良い成績をとるという目標を胸に、日々の家庭学習や、授業に臨んでいたり、部活動の面では、次の大会ではもっと良いプレーをするという目標に向かって、練習に励むなど、人は誰でも「昨日の自分に勝つ」という目標を掲げて生きています。その常に何かを越えようとする意識が、よりよいものを生み出すということに繋がっているんだなと思いました。次に二高のOBOGによる懇談会です。私はOBの先輩に大学・学部選びで大切なことを三つ教えていただきました。一つ目は、「自分が何に興味があるのか」ということです。大学は自分が興味のあることについて深く追求する場です。そのため、あまり関心のないことについて大学で学ぶのは苦痛でしかありません。しかし、自分が興味関心のあることは、深く知れば知るほど面白さが増します。だから、今、自分が何に興味があるのか、



何を学びたいのか、これらを意識することが最も大切であるとおっしゃっていました。二つ目は、「その大学で何をしたいのか」ということです。それぞれの大学によって、何を重視しているのかが異なってきます。そのため、入学してからの授業の内容や、雰囲気、行事なども異なります。大学の授業のカリキュラムについて、あらかじめ自分で調べておいたり、オープンキャンパスでその大学の雰囲気を体験したりするなど、自分が将来したいことに最も近く、自分の性格にも合っている大学を選ぶべきだそうです。そして三つ目は、「合格が目標ではない。あくまで通過点である。」ということ。合格することだけを目標として、必死に受験勉強をしている人は本当にたくさんいると思います。しかし、合格だけを目標としていると、仮に受かったとしても、その後の大学生活での目標や希望を見失ってしまう可能性もあります。もちろん、合格しなければ元も子もないので、それを一番の目標とすることは決して悪いことではありません。むしろ、それほど合格への熱意があるということなので素晴らしいことでもあります。ただ、合格したあとの自分を想像することで、モチベーションの向上にも繋がるのです。入学してからやりたいことなどを考えておけば、それに向かってさらに頑張ろうという意欲が湧いてきます。だから、合格だけにとらわれず、もう少し広い視野を向けることが大切だそうです。私は二高の先輩に教えていただいた三つの事を胸に、自分に合った大学・学部を選んでいきたいと思っています。そして、二年後の大学受験に向けて、日々の勉強を頑張っていきたいと思っています。最後に、東京大学のオープンキャンパスについてです。

私は今回の東大見学会で初めて東大に行きました。今までテレビなどで何度か見たことはありましたが、実際に見てみると、一段と迫力があり、堂々たる東京大学の姿に息を飲みました。建物としては、古くからの歴史を感じる、味のある建築物ばかりで落ち着いた雰囲気を醸し出していました。東大生も、建物同様の落ち着いた品のある雰囲気がありました。私は、友達と二人で、理学部の細胞や遺伝に関する講義を受けました。授業は写真などの映像を使って行われていて、私たちのような高校生にも理解できるように、大学の先生がとても分かりやすく解説してくださりました。日本一の学力を誇る東京



大学の貴重な講義を実際に受けることができ、本当によかったです。私は今回の東大見学会企業大学訪問で、普段の学校生活では学べないようなことをたくさん学びました。また、大学や企業についてのお話を聞いたことによって、より一層、自分の将来に希望を持つことができ、数年後の自分は一体どこで何をしているんだろうと、今まであまり考えたことのない疑問も持てるようになりました。これからは、周りの身近な大人の方々と積極的にコミュニケーションをとり、人生の先輩から様々なお話を聞いていけたらなと思います。そして、まずは二年後に迫った大学受験に向けて、毎日の勉強を怠らず、基礎をしっかりと身に付けていきたいと思っています。為になる経験をすることができ、本当に、心から、この東大見学会企業大学訪問に参加して良かったなと思いました。